

平成 30 年度第 3 回豊能町総合教育会議 会議録

【概要版】

日 時：平成 30 年 2 月 19 日（月） 午前 11 時 15 分～午前 11 時 50 分

場 所：豊能町役場 2 階大会議室

出席者：構成員 池田勇夫町長（議長） 新谷芳宏教育長 宮崎純光教育長職務代理

太田佳子委員 川村新委員 岸本恵子委員 坂口敏子委員

出席者 乾副町長 南教育次長 入江教育総務課長 小田教育支援課長

中谷生涯学習課長 川西子ども支援室長

事務局 内田総務部長 小嶋秘書政策課長 黒田秘書政策課主任

傍聴希望者：4 名

会議次第

1. 議長（町長）あいさつ

2. 議題

- ・豊能町教育大綱について

3. その他

開会 午前 11 時 15 分

議長（町長）

- ・前回の総合教育会議において、委員の皆様からいただいたご意見をふまえて作成した「豊能町教育大綱（案）」について、委員の皆様のご意見・質問を承りたい。
- ・敷地については、旧吉川幼稚園や吉川支所、ふれあい広場等を含めて利用する形で今後基本設計をしたい。
- ・西地区において子どもの送迎が必要ないということも一つの大きな条件である。
- ・距離としても通学がすべての地域で 3 キロ以内におさまることから、西地区では送迎バスはなしということでご理解いただきたい。保幼については別で考える必要があるが、一番体力をつけて欲しい年代でもあるので、徒歩で通学と考えている。
- ・委員の皆様にご真摯に慎重に協議をいただき、ご意見を反映させた形で教育大綱を作成しましたので、ご理解をいただきたい。
- ・豊能町教育大綱（案）についてご理解をいただいたので、協議が調ったものとする。

- ・教育大綱と同時に跡地利用も決定できたら一番良いが、教育と行政は全く別で考えており、まずは学校をどうするのかを第一に考えてその後から跡地利用等について示していきたい。できるだけ早い時期に町民の皆様を示すことができるように努める。
- ・戸知山を利用して自然の中で教育ができる場所づくりをしたい。豊能町の自然を利用しながら郷土を愛する子どもたちを育てたいと考えている。
- ・北摂地域だけでなく大阪府下全域でも豊能町の学校に視察に行こうと思ってもらえるような、温かみのある、そして人間味のある学校にしたいと考えている。

委員の主な意見

- ・結構具体的な形で表現されている。具体的に敷地の場所まで示しても大丈夫なのか。
- ・**1**で地域学習「とよの学」を推進と示したことで、より一層とよのの学習をしていくということが学校現場にもはっきりわかるので、具体的に明記されているのでよいと思う。
- ・再配置により東地区の環境が大きく変わるということで、非常に心配もあり、どのようにしたらいいのかを議論してきた。東地区のいい環境を子どもたちに伝えるということが、ひとつの使命だと感じている。そこで地域学習、自然体験学習を通じて東地区の良さを子どもたちに伝えていくということで第 1 項目に「郷土を愛し」であるとか、「とよのに誇りを持つ子どもを育てるため」といった一言を含んだあたりがたい方針だと思う。
- ・西地区の送迎について、小学校も送迎なしということか。例えば新光風台からも小学生は徒歩で通学するということか。
- ・**1**の「郷土を愛し」や「地域学習 とよの学を推進」など、豊能町の特性を活かした点を具体的に示していただきありがとうございます。
- ・開校時期は平成 35 年 4 月を予定ということで跡地利用の計画についても、方向性や時期などは決まっているのか。
- ・行政が先にありきとなれば、教育委員会も制限がかかって実際の案がなかなか思うように描けない可能性もあった。そういう意味でも、今回子どもの育ちをまず第一に考えて検討をすることができてありがたかった。
- ・何年も議論を重ねた結果であり、同じ敷地内で行う小中一貫教育が子どもたちの学びにとって一番良いという結論に達したという説明ができれば、たくさんの保護者の不安も先が見えて解消できると思う。
- ・学校が図書館の近くになるので、豊能町でずっと大切にしてきた図書館教育も学校とより一層連携しやすくなるということも住民の方々に伝えたい。
- ・とよの学について、内容は我々が力を入れて考えていけないといけませんが、ソフト面とハード面は切り離すことはできないので、例えば空き地や山林を教育のために

使わせてほしいとなった際には、ご協力いただきたい。

- ・小中一貫校を整備するにあたって、日常的に豊能の自然が意識された学校の設備などを検討していただきたい。

《閉会 11時50分》